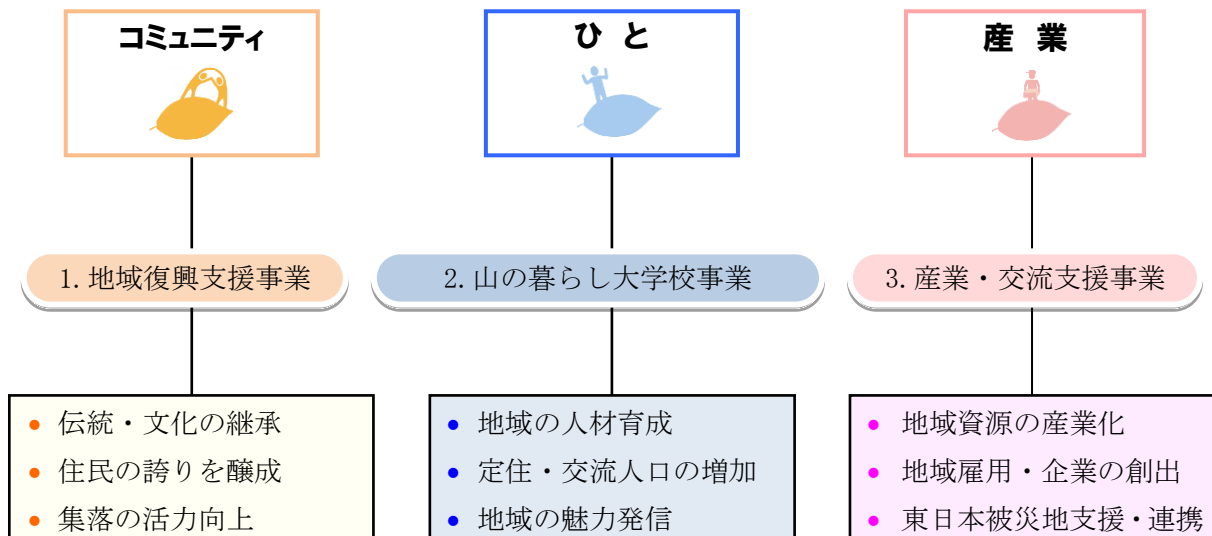


平成25年度 事業報告書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

「中山間地域再生への創造的な取組みを通じ、持続可能な中山間地域の形成を目指す」という基本理念に基づいて、住民主体による集落経営の実現に向けた「コミュニティ（集落）」、「ひと」、「産業」の三要素を育成するために、『地域復興支援事業』、『山の暮らし大学校事業』、『産業・交流支援事業』を主要事業として取り組んだ。



また、平成23年12月22日付けで長岡市が国から指定を受けた総合特区は、「持続可能な中山間地域を目指す自立的地域コミュニティ創造特区」として、“誰もが安心して暮らし続けられる地域”を目指している。

この特区の目標は当財団の基本理念と一致するものであり、指定区域が復興支援員を配置している地域であるため、さらに長岡市と連携しながら特区を活用した地域の取り組みの推進に向けて支援した。

さらに、中越大震災から学んだ復興経験を、東日本大震災被災地の復旧・復興に役立てられるよう、関係者と連携して支援活動に取り組んだ。また、長岡市と大槌町の民間交流を推進し、大槌町の復興の一助となる事を目的に民間活動団体ベースでの交流事業を実施した。

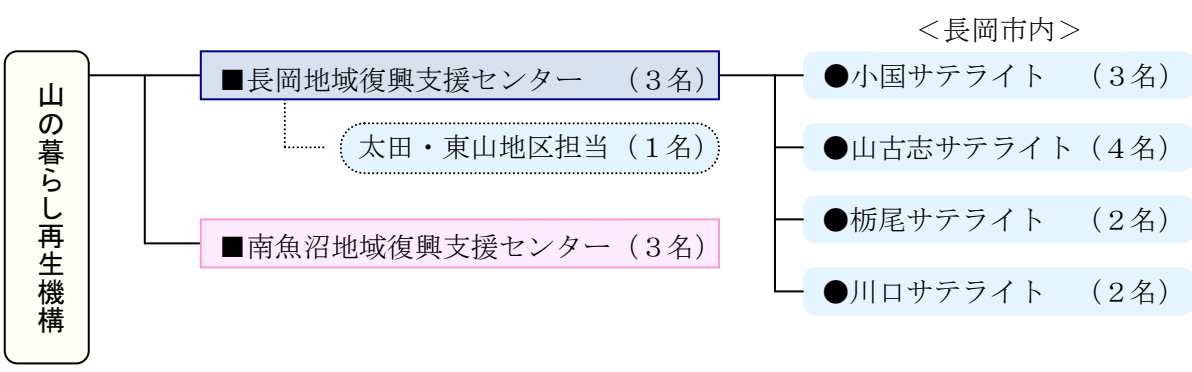
1 地域復興支援事業

コミュニティづくり ～地域を支える集落機能の強化～

中越地震で大きな被害を受けた中山間地域の復興を確実に進めるため、外部の人材が地域に入って住民と一緒に復興の支援活動を行う(財)新潟県中越大震災復興基金事業の地域復興支援員制度として平成20年度から開始された。

当財団では、中越地震で被災した中越地区の再生・復興のために、長岡市(旧市町村地域にサテライト4か所)、南魚沼市に復興支援センターを設置して、地域復興支援員が地域活性化に向けた住民主体の活動を支援した。

◆地域復興支援員設置状況



※人数は H26. 3. 31 現在

中越大震災復興基金の「地域復興支援事業」は、当初、平成24年度までのメニューであったが、2年間延長となり、今後の活動内容については集落、住民支援に基礎を置きながら、地域の自立的復興支援に重点を置くよう求められた。

これらを踏まえ、制度延長の最終年度を見据えた中で自立に向けた意識の醸成等を図りながら、復興の完成を目指した。また、基金メニューの地域資源活用・連携支援、地域経営実施支援を活用できる団体を積極的に支援し、地域の自立的復興を目指した。

H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
★ 中越地震発生			● LIMO 設立	中越大震災復興基金事業期間 (10 年間)						
				復興支援事業 5 年間					2 年間延長	

1 集落活動支援事業

復興支援事業の支援として基金事業のフォローアップや、次世代への支援となる担い手育成を通じて、自立に向けた支援の完成を目指して実施した。

2 地域連携支援事業

地域コミュニティ構築に向け、地域団体等が実施する事業の運営や、地域内外の活動団体連携に向けてのネットワーク体制づくりを支援した。

3 地域経営支援事業

ヒト、モノ、コトの利活用を通じた地域資源育成連携や地域情報発信などのマネジメント体制構築を支援した。

◆主な支援活動

長岡地域復興支援センター	① 各拠点での支援活動の統括調整（勤怠管理等を含む） ② 各拠点で行われてきた事業継続方法等の検討 ③ LIMO 通信やWEB サイトによる情報発信
太田・東山地区	① 太田地区復興活性会議の先導事業のフォローアップ ② 大学生等外部人材の活用による住民交流調整支援
小国サテライト	① コミュニティセンター設置に向けた検討会開催支援 ② 除雪組織のネットワークづくり支援 ③ 長期インターンシップの受け入れ支援
栃尾サテライト	① 「地域活性化ネットワークとちお」設立支援 ② 地域づくりインターンシップ受け入れ支援 ③ 地域自治・地域活性化活動の基礎調査支援
山古志サテライト	① 「山古志住民会議」の運営支援（実施事業を含む） ② ツーリズム事業に合わせた地域資源の磨き上げ支援 ③ 東日本大震災被災地住民との住民交流支援
川口サテライト	① NPO 法人と協働した「これからの川口を考える地域指標づくり」支援 ② 集落、団体同士の連携活動事業の支援 ③ 川口小中学校の総合学習支援
南魚沼地域復興支援センター	市内 12 地区の地域づくり協議会への活動支援

2 山の暮らし大学校事業



～地域を活性化する人材育成と交流促進

「都市と中山間地域に暮らす人たちが共に学ぶ」をコンセプトに、「自然と共に暮らす知恵」を教材にした「学び・体験」の機会を提供し、こどもから大人まで里山を活性化するための人材を育成する事業を開催した。



「中越・山の暮らし大学校」の開校式で挨拶する谷村さん(H25. 10. 14 太田)



「中越防災研修講座」で中越地震からの復興への取り組みを研修する受講者(H25.11.13 アオーレ長岡)

■事業実績

<p>(1) 谷村新司さんと共に学ぶ林間学校</p>	<p>「フラッグアーティスト」に就任いただいている音楽家の谷村新司さんが参加して、「衣・食・住」と「音」の融合をコンセプトに、地域の文化に触れながら中山間地域住民と都市住民が交流した。(寺泊地域、太田地区、越路地域を会場として開催)</p> <p>【実施日】平成25年10月13日(日)～14日(月・祝)</p> <p>【参加人数】60名(首都圏40名)</p>
<p>(2) 地域・集落自主交流プログラム支援事業</p>	<p>古志の火まつりへの岩手県大槌町の風虎会招致を通じ、地域の魅力を高めると共に、お互いの地域の若い世代同士の交流を通じ、次世代の人材育成に寄与した。</p> <p>【実施日】平成26年3月8日(土)～9日(日)</p> <p>【参加人数】22名(岩手県大槌町から)</p>
<p>(3) 東日本大震災被災地支援事業</p>	<p>中越地震からの復興を経験した「長岡だからできる」支援活動を通じて、中越地震からの復興の恩返しをするとともに、中山間地域の文化・資源を被災地に紹介しながら民間レベルの交流を創るため、中越防災研修講座を実施した。</p> <p>1日目：アオーレ長岡で実施(危機防災研修)</p> <p>2日目：震災メモリアル拠点(きおくみらい、そなえ館、きずな館)の視察と研修及び交流(復興研修)</p> <p>3日目：やまこし復興交流館おらたるで実施 山古志地域の視察と復興の活動についてディスカッション</p> <p>【実施日】平成25年11月13日(水)～15日(金)</p> <p>【参加人数】自治体職員10名、NPO・民間企業6名</p>

3 産業・交流支援事業



産業づくり

～地域を豊かにする産業創出と地域連携～

震災からの復興に向け、被災地域に蓄えられた資源を都市農村交流や物販等の経済活動につなげるため、農作物・加工品販路の拡大支援及び交流人口の獲得支援を行うとともに、中越地震の風化防止に取り組む事業を実施した。



米百俵まつり大手通ホコ天にて小国地域特産物販売(H25.10.5)



大槌町の高校生・大学生との交流会にて中越地震のノウハウを伝える(H26.2.22 岩手県・大槌町)

■事業実績

<p>(1) 地域資源活用促進事業</p>	<p>① センター・サテライト設置地域における集落住民の魅力ある活動紹介を行うため、(一社)長岡観光コンベンション協会が主催するホコ天への参加を地域住民に呼びかけ、出店機会の創出と持続可能な販売を行う検討・支援を行った。 【実施日】 5月5日(日)、6月2日(日)、7月7日(日)、9月7日(土)、10月5日(土)、11月2日(土)(6回の参加呼びかけ) 【実施場所】 アオーレ長岡、大手通1・2丁目の車道及び歩道 10月5日(土) 小国地域から3団体参加 11月2日(土) 南魚沼市から1団体参加</p> <p>② 地域の活動団体が地域資源を活用した弁当などの地域特産品の販売を促進し、市内の地域間交流を深め、地域の活性化を図ることを目的として、移動販売車を借上げ、市民活動団体に無償貸与するモデル事業を実施した。 【実施団体】 おぐに結城野の会 【実施場所】 アオーレ長岡他 【実施日数】 92日</p>
<p>(2) 震災メモリアル拠点施設活用促進事業</p>	<p>震災メモリアル施設を活用した視察・研修プログラムを東日本大震災被災地や、今後ニーズが高まると考えられる団体へ提案した。 【実施日】 平成26年2月22日(土)～23日(日) 【実施場所】 岩手県大槌町(一社)おらが大槌夢広場他</p>

4 長岡市・大槌町復興交流事業

東日本大震災の震災がれきを受け入れた事をきっかけに行われている長岡市と大槌町の民間交流を推進し、大槌町の復興の一助となる事を目的に被災地間交流及び復興支援活動を民間活動団体ベースで実施した。

【実施日】 平成25年10月26日（土）～27日（日）

【実施場所】 アオーレ長岡、やまこし復興交流館「おらたる」他

【参加団体】 おらが大槌復興食堂（大槌町）、向川原虎舞「風虎会」（大槌町）
@リアスNPOサポートセンター（釜石市）
Y - GETS（山古志地域団体）、山古志住民会議



「おらが大槌復興食堂」出店 (H25.10.26
越後長岡・暮らし文化の祭典)



参加団体による交流会 (H25.10.26 やまこし
復興交流館)

■事業実績

<p>(1) 越後長岡・暮らし文化の祭典への出店運営支援</p>	<p>越後長岡・暮らし文化の祭典への「おらが大槌復興食堂」の出店を通じ、山古志地域の若手グループ団体の「Y - GETS」が販売活動を協働で行うことにより、相互の情報交換と交流を図ることができた。(用意した300食が完売)</p> <p>【実施日】平成25年10月26日（土） 【実施場所】アオーレ長岡 【参加人数】31名</p>
<p>(2) 民間活動団体交流会</p>	<p>山古志地域で震災後から取り組んだ「かぐら南蛮」のブランド化や飲食店の起業、闘牛や錦鯉の伝統文化・産業について、震災復興の話題提供による意見交換を行い、被災地としての共感や将来に向けた希望を見出すための意識の高揚を深めた。</p> <p>【実施日】平成25年10月26日（土） 【実施場所】やまこし復興交流館 【参加人数】40名</p>
<p>(3) 現地視察</p>	<p>錦鯉品評会と闘牛牛舎の視察を行った。若手養鯉業者や闘牛関係者から、震災で甚大な被害を受けたが事業を継承し、現在に至っている説明を行い、大槌町の参加者に今後の活動への安心感を与えることができた。</p> <p>【実施日】平成25年10月27日（日） 【参加人数】26名</p>

公益財団法人 山の暮らし再生機構

〒940-0062 長岡市大手通 1-4-11

電 話 : 0258-30-1213 F A X : 0258-30-1205